



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

やらまいか

クラブテーマ：みんな仲良く!地域に、地球に奉仕しよう!

会長/林 博宣 幹事/小田伊佐浩 会報委員会/青谷友章・大仁孝泰 例会/毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所事務局/豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 FAX0533-86-8889 HP:<http://toyokawahoi.tank.jp/>

本年度第回 31 通算 1670回 2022年4月12日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	3/29 修正出席率
		72名	44名	67.7%	63.5%

ゲスト：豊川閣妙厳寺住職 福山憲隆さん

ビジター：(なし)

★岩瀬靖宏パスト会長のごあいさつ



去る4月7日に親父が99歳で天国に旅立ちました。現在、コロナの感染対策ということで、葬儀会場で一堂に会してご挨拶をさせて頂く機会がございませんでしたので、本日ご挨拶をさせていただきます。

創立30周年の年度に正会員からクラブを退会させていただきました。そして約6年自宅で療養生活をしておりましたが、昨年の9月から介護施設にお世話になって、この3月7日に豊川さくら病院に入院をしました。それから約1か月、治療の甲斐もなく帰らぬ人になりました。最後の死因は腎不全で、苦しむこともなく安らかに息を引き取ったということでした。

豊川宝飯ロータリークラブ在籍中は、一方ならぬお世話になりまして、親父もロータリー筋でずっと終身会員ということで最後を迎えました。皆様方の熱い友情に感謝を申し上げまして、簡単ではございますが御礼のご挨拶とさせていただきます。どうも大変お世話になりました。

豊川宝飯ロータリークラブ在籍中は、一方ならぬお世話になりまして、親父もロータリー筋でずっと終身会員ということで最後を迎えました。皆様方の熱い友情に感謝を申し上げまして、簡単ではございますが御礼のご挨拶とさせていただきます。どうも大変お世話になりました。

★黙とう

故岩瀬保名誉会員のご冥福をお祈りして黙とうをさせていただきます。

★会長あいさつ



林 博宣会長

こんにちは。春の陽気を一気に飛び越えて随分と熱くなって参りました。この水分補給など体調管理には十分に気をつけて

頂きたいと思います。

4月7日に名誉会員であります岩瀬保様がお亡くなりになりました。岩瀬保名誉会員は、小野光男初代会長、村松明3代目会長と共に、豊川宝飯ロータリークラブの創立にご尽力をされました。当クラブの2代目の会長も務めて頂いております。

私が入会した頃は、とても元気で例会にはいつも車を運転して来られていました。長年、ゴルフ同好会の会長も務めて頂き、私も数回プレーをご一緒させて頂きました。腕っぷしが強く、ドライバーの飛距離もかなりあったよう記憶しています。

米寿のお祝い例会が平尾カントリークラブで行った時に、紫の袴纏と帽子を被っていた姿が懐かしく思い出されます。100歳まであと2か月だったそうです。謹んでご冥福をお祈りいたします。

先週開催しました花見例会には、多くの皆様にご参加を頂きましてありがとうございました。平尾カントリークラブの桜の満開は少し過ぎていましたが、駐車場手前の道路は桜トンネルとなっており、見頃のように思いました。まだ制限のある中での開催なので、コロナ前のようにはいきませんでした。みんな仲良く楽しいひと時を過ごせました。企画し

て頂きました親睦委員会の皆さん、サポートをして頂いた事務局さん、ありがとうございました。

昨日は分区のゴルフ大会が東海カントリークラブで開催され、東三河分区 12 クラブから 101 名の方がされました。当クラブからは 11 名が参加をして頂きました。成績は、一般の部で吉田会員が 4 位、シニアの部で加藤副会長が 4 位、グランドシニアの部で夏目パスト会長が 6 位でした。各組で親睦を深められて楽しいゴルフが出来ました。

最後に加藤哲山副会長にロータリー財団からポールハリスフェローの表彰とバッジが届きましたので贈呈したいと思います。



★幹事報告

小田伊佐浩幹事

例会臨時変更のお知らせ
地区 WFF 開催について
ウクライナ人道支援義援金の協力について
豊橋 RC70 周年史の回覧について
分区ゴルフ大会の参加結果について

★委員会報告

親睦委員会 加藤雅美委員長
花見例会参加の御礼
春の行楽開催のご案内

★講師のご紹介

加藤哲山各会長



こんにちは。本日のお話をして頂く、妙厳寺住職の福山憲隆方丈様をご紹介します。

まだ住職になられて日にちが経っていません。皆さん

もご承知だと思いますが、福山諦法猊下のお弟子さんとして永平寺に 13 年ぐらい一緒に行って頂いて、福山諦法猊下のお世話を長いことして頂きました。妙厳寺に帰ってきて、今度は妙厳寺の住職として働いていらっしゃいます。大変やる気のある方で、私たち年寄りの尻をパチパチと叩きながら一生懸命にやっておられます。今日は宜しく願いします。

★外部講師の卓話

豊川閣妙厳寺 福山憲隆住職



皆様方、改めましてこんにちは。只今ご紹介頂きました妙厳寺住職、福山憲隆と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今般ここに来るまで、どのような会か不安で、またタイムスケジュールを見ましたら、私の持ち時間が一番長くて、このような機会を頂いたのですが、大変緊張と恐縮をしております。題なきお話、何を皆様方にお話して良いのか、寝不足になるぐらい考えて参りましたが、私は考えているうちに、やはり僧侶でありお坊さんであるということ、仏教の話になってしまい、それが皆様方に果たして聞き入れて頂けるか、つたない話になるかもしれませんが、どうか宜しく願い致します。私は、和尚でありながら、まだまだ知らない仏教がたくさんあります。まだ私自身が勉強中であります。どうか、そのあたりも考慮して宜しく願い致します。

お話に先立ちまして、皆様方に私の方から質問させて頂きます。当たり前の反対をご存じでしょうか？今日のお話は、その「当たり前」という言葉、最後にお答えしたいと思います。それについてのお話とさせて頂きます。結果、自分の思うことを自分なりに仏教に通ずる話に何とか持っていきます。

当たり前の反対語を知っている方もいると思いますが、この話の最後にお伝えいたします。そして、それが仏教と関りをもっていること、最後にお伝え致します。

まず、今、私が勤めている豊川稲荷、皆様方はご存じのことと思いますが、妙厳寺という禅宗、いわゆる禅を重んじるお寺でございます。よく神社と間違われますが、禅宗のお寺でございます。そして禅とは何か、私なりに正しく生きる方法、これが全て禅であると思

っております。社会で生きる私とは違う大自然の中の人間、自分というもの、真心、本質とっております。特に座禅は修行の中でも大切とされております。お釈迦様の教えから中国に座禅を伝えられましたのは達磨大師でございます。その達磨大師の禅の教えが中国に脈々と伝えられ、のち日本の僧が中国に渡り修行をし、日本に持ち帰り広められました。

私どもは、その禅宗でありまして、福井にあります大本山永平寺と神奈川にあります大本山総持寺を、両本山とする曹洞宗に属しています。そして、大本山永平寺を開かれた高祖道元禅師様のお弟子に寒巖義尹禅師様という大変優秀な禅僧がいました。寒巖義尹禅師様は、順徳天皇第三皇子であったとされております。しかし、そのままの生活をしていたら皇子になるかと思いますが、発心し仏道を歩む出家の道を選びました。寒巖義尹禅師様は、その当時たいへん荒れている時代だったそうですが、時世を救うとの大願心、願いを抱き、二度中国に修行に行かれ、日本からの帰郷後は、九州方面、特に肥後の国、今の熊本県にてご活躍されました。大変優秀な僧侶だったそうで、当時東海地方にその教えを広めて頂きたいと懇願があったそうですが、時すでに高齢のため目的は達成できず、遷化(この世を去ること)されました。その願い大信念は、弟子から弟子へ伝えられ5代後のケゾウギゾン様が遠州、今の静岡県浜松市にお越しになりました。さらに華蔵義曇様には、十三人のお弟子様がいて、十三人のお弟子のうち一人の東海儀易禅師様が妙巖寺豊川稲荷をお開きになられました。伝えによりますと、妙巖寺のご本尊様は寒巖義尹禅師様が中国から伝来されたとされる千手観音菩薩だとされております。そして鎮守として祀られている豊川吒枳尼眞天、皆様方がお稲荷さんとお呼びする尊天様は、寒巖義尹禅師様が中国から帰朝の際、海上に出られた時に、空中に妙相端麗、大変きらびやかな格好をし、稲束を担い、宝珠を掲げ、白

狐にまたがって声高らかに「おんしらばったにりうんそわか唵尸羅婆陀尼黎吽娑婆訶」と唱え、寒巖義尹禅師様「われはこれ吒枳尼眞天なり、

今より将に師の方を護するにこの神咒を以てし、また師の教化に帰服する者を守りて、常に安穩快樂ならしめん、必ず疑うこと勿れ」。簡単に言うと、中国から日本に戻る際、吒枳尼眞天が空中にお姿を現し、寒巖義尹禅師様は船上から、そのお姿が見え、更に「唵尸羅婆陀尼黎吽娑婆訶」というお言葉を大切にすれば、寒巖義尹禅師様の教えとそれを信じる者を守る、疑ってはいけないとお告げし、お姿を消されたとされております。「唵尸羅婆陀尼黎吽娑婆訶」というお唱えの意

味は、「唵尸」とは行き渡らざるの儀、「羅」は戒め、決まり事、正しく生きる道、明らかな教えということです。「婆陀尼」は破碎。「黎吽」は障災の儀で、災いを除き、福を授け、苦を除き、楽を与える。「娑婆訶」は成就という意味です。従って、この神咒を唱えるときは、我が真心はどこまでも通じて、その心は清明なる戒の力により、悪事、災難を除き、福德知恵を得、苦を転じて楽となし、悲しみを転じて喜びをなすということが必ず成就するという意味であります。この神咒こそ、吒枳尼眞天の全生命力であり、真誓願であります。寒巖義尹禅師様は、深く感激し、吒枳尼眞天の形、形造を自分で掘られ刻まれました。それが、大変有難いご縁により、妙巖寺に伝えられ豊川稲荷としてお祀りしております。

様々な時代、各武将が武運長久を祈り、商人は商売の繁栄を祈念し、農家は五穀の豊穰を願い、漁師は大漁満足、海上安全を祈願するようになり、心願成就する尊天様のお力は広く浸透し、今日では遠く海外にも及んでおります。この広く世に広く浸透されたこと事態が、既に吒枳尼眞天様のお力であり、神通妙用万徳円満によるもの、広く世を導き下さっている表れかと感じます。そして、このことは今でも当豊川稲荷では、敬い信じて毎日何度も「唵尸羅婆陀尼黎吽娑婆訶」尊天様の神咒をお唱えしております。東海の地でも寒巖義尹禅師様の教えが伝わり、今日妙巖寺と豊川稲荷があるのは、寒巖義尹禅師様は勿論の事ではありますが、寒巖義尹禅師様の教えを守られて来た僧侶、教えを信じてきた参拝者、有難い縁を頂いてきた先達のお陰でもあります。寒巖義尹禅師様ご自身は、この世を去ってしまいましたが、その思い、大信念が、何代にも亘り叶えられたとされております。見える縁は勿論のこと、見えない縁により今日の豊川稲荷があること、支えられていること、誠に有難く大変感謝いたします。

今は、豊川稲荷についてのご縁の有難さをお話しましたが、皆様方も今いる自分、考えるとどれほど多くの縁に支えられて存在しているか、生かして頂いているか、考えたことがあると思います。何気にある当たり前の物事、当たり前という言葉は、一説には当然という言葉から来ているそうですが、当たり前にしても、当然と思うことにしましても、本当にそうなのか、元々存在していたものなのか、と言うと、そういう訳ではありません。

一つ例として、私たちが頂いている食事を考えてみます。医食同源、あるいは薬食同源という言葉があるとおりに、我々の生きる中で最も大切な行いです。生命を養い、健康を保つために、欠くことはできません。そ

のことを考えますと、一つ一つの食材が出来るまでに
関わる時間、試行錯誤しながら築き上げてきた時間、
栄養を考える、医学、栄養面、保存方法、より便利に、
食べ物を口に入れる器、それぞれの文化、風習等、日本
の文化ですと箸やさじなどの道具、あるいはより美し
く、あるいはより美味しく食べるための規則、ルール、
マナー、エチケット、それぞれの家風。お米なら稲作文
化を伝えた歴史、大自然の恵み、太陽があり、日本には
春夏秋冬の季節がはっきりしている、晴れの日もあれ
ば雨の日もある、昼もあれば夜もある。文明の発展が
あり、大自然の恵みがある。日月時間がある。作物の育
ちを知ることが出来る。我々は成長が分かり、年は取
りたくないけれど1年1年増えることがわかる。もし
なければずっと1歳のままになってしまいます。その
時代の時代背景、考えれば考えるほど支えられている。
何に支えられているのか、一言で言いますと、それら
は多くのご縁があつてのことではないでしょうか。時
代は移り変わります。時代が変わると文化にも影響致
します。文化が変われば食生活も変わります。そのよ
うな中、時代が変わり食生活が変わっても、変わらな
いことがあります。それは、我々が頂いている口にする
食べ物には、全て命があるということです。更に器
や箸などの道具にも命があるということです。我々が
生きるためには、その命を頂いているということを目
覚し、そのことに感謝することが仏教です。

今現在、新型コロナウイルス悩まされている時代、
普段行っていること、習慣になっていることが出来な
い。外食に行こうとしてもお店が営業していなければ
行けない。運動をしようと思ってもマスクが邪魔にな
る。感染が心配で友人と会うことが出来ない。人数制
限、時間制限等、今まで行えたことに制限が掛けられ
ストレスになることがしばしばあることと思います。し
かし、今ある我々の真実の時代であります。中には、コ
ロナウィルスにより非日常生活は日常と違う視点で物
事を見ると、新しい物事、新しい自分を見出した方も
いらっしゃるかと思います。本来の自分、催しイベン
トなどコロナ禍に合わせて工夫した伝統ある行事を続
けるため規模を縮小したり、凝縮したりしています。

当山でもコロナ禍でもお参りできるように、地域活性
化のために豊川青年会議所が中心となり夜お参りする
YORUMO-DE を実現して下さいました。昨年4月より
毎月22日の豊川稲荷縁日には開催をしております。時
期に応じて特別期間も考えて下さっています。

一人一人では休みが待ち遠しい学生生徒も休校が続
くと学校に行きたくなくなる。仕事が大変でも働いている
自分の方が生きがいを感ずる。外食より自宅で食べる

方がいい。アルコールを飲む量が減った。様々な考え
が変わった方もいらっしゃるかと思います。本来、我々
は日々変わっていきます。味覚が変わる。日々考えが
変わる自分。日々成長する自分。日々衰えていく自分。
知らず知らず時の流れは自分自身を変えています。仏
教では諸行無常といい、常に移り変わる時の中、ひと
時も留まることのない時間の中を我々は生きていると
いうことです。大げさに申しますと、昨日の自分と今
日の自分は全く同じ自分ではないということです。毎
年同じように咲く花も、全く同じではない。同じ景色
のようで、全く同じではない。全く同じ物事はないと
いうことです。そのことはこの世の真理であり、大変
悲しいことと思います。実は、だからこそ一瞬一瞬が
大切であり、大変尊い命を生きているということなの
です。そして、そこには、どのように変わっても変えて
はいけないこと、それは、私たちは多くの命に支えら
れている、多くの命を頂いている、つまり感謝の心は
失ってはいけません。そのためにお寺があります。お葬
式は、ご先祖様のご供養も勿論大切ですが、私が思う
のは、お寺に来て手を合わせる行為は、どのようなこ
とでも自分自身に感謝し、自分自身を大切にしている、
自分の縁を大切に、自分自身の心を大切にしている
という事です。ご先祖様のお陰で私の命があります。亡き
大切な人との縁で私があります。先祖供養が出来る自
分に感謝。大切な人との縁を頂けた自分に感謝。遠方
に住まわれている親や友人の幸せを祈る。あるいは大
切な方のお体を気遣いお祈りする。お子様の合格祈願、
成長のためお祈りする。皆様方の心の願いをお参りす
ることにより、皆様方自身の心が晴れる、スッキリす
る。

また、草が生えている、人間の都合で抜く。虫が生
きている、知らない間に踏みつぶしているかもしれない。
嫌われる虫は殺虫剤を使用する。草は我々に抜かれる
ために存在したのか。虫は踏みつぶされるために生ま
れてきたのか。人間の都合と感じたら手を合わせ懺悔
する。皆様は懺悔という言葉は知っていると思います
が、仏教では同じ字を使いまして「さんげ」と言いま
す。人間が生きていく上で、どうしても頂かないとい
けない命があり、罪を償うというより、人間の都合で
頂く命に申し訳ないという心、手を合わせ、ありがと
うと感謝する行為、自分の命の有難さ、尊さを知るこ
と。自身の心を大切にする。誰かのためのお参りでも、
そのお参りは清き行為であり、美しい心の表れであり、
自分という存在を正しくして下さる行為であります。
お参りできる自分に感謝。機会がございましたら是非

お参りして下さい。自分が必要かと思うこと、やっ
て良かったと思うことは、他の方にも勧めて下さい。

ただいま当山は、ご本尊様が祀られている本堂を老
朽化のため建て替え中でございます。多くの方々にお
参りして頂きたく、ご縁を結んで頂きたく、また未来
永劫に残すためにご協力をお願いしております。どう
か豊川宝飯ロータリークラブの皆様方におかれまして
も、何卒お願い申し上げます。

最後になりますが、当たり前前のお答えをしま
す。先ほどからお伝えしているように、答えは「ありが
とう」です。ありがとうと言うことは、感謝すること、
滅多にないこと、奇跡、またとないくらい遠いとい
うことが辞書では意味としてあります。そして、一説に
は、語源は、お釈迦様の教えにあり、お釈迦様は自分
自身が人間に生まれることの尊い縁、どれほどの縁が
関わって存在しているのか、それをあることがたし、あ
ることが難しい、尊い縁と巡り会えたという仏教語で
す。尊い命、尊い自分と巡り会うことが出来た事は、
当たり前前のことではなく、ありがとうと感謝する。そ
のように日々を送ることが人間としての心であり、真
心であり、切望致します。国内外が困惑している時代
です。尊い命、儚い命を大切に、皆様方お体に十分
にご自愛して頂きまして、そしてある命をより清く、
より美しく、輝かして下さいますよう仏天冥護があ
りますようにご祈念申し上げ、私のお話を終わりに
させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

豊川閣妙厳寺ホームページ

<https://www.toyokawainari.jp/>

★ニコニコボックス

岩瀬靖宏会員	葬儀会葬御礼
林 博宣会員	ゴルフ同好会で優勝して
夏目雅康会員	花見例会で賞品をもらい
池田 弘会員	誕生日を祝って頂き
寺部良洋会員	〃
浅野 晋会員	〃
水野太一会員	結婚記念日を祝って頂き
梅田喜嗣会員	事業所創業を祝って頂き
伊藤正幸会員	〃
笠原盛泰会員	〃
柴田浩志会員	〃
金田枢宏会員	〃
鈴木卓也会員	〃
伊藤和典会員	入会記念日を祝って頂き
吉田 悟会員	〃

★国際ロータリーFacebook 紹介

ロシアによるクリミア半島併合後に国内外への移
住を余儀なくされた ウクライナ のロータリー会
員たちは、不屈の精神でロータリーの活動を続け、
人道的支援や被災地支援を行ってきました。ウ
クライナの会員たちのストーリーをご覧ください。

<https://on.rotary.org/3M6nS0b>



Lubomyr “Lu” Hewko は、ロータリーの CEO
兼総書記長の父親、第二次世界大戦中にウクライ
ナから逃亡した。数年後、ミシガン・ロータリー
クラブの会長として、彼は母国を支援するプロジ
ェクトを組織した。ウクライナが独立を宣言した
後、ルウは首都キエフで最初のロータリークラブ
をチャーターするのを手伝った。各地域のロー
タリーメンバーは、ウクライナのロータリーの基盤、
その成長、そしてこれまでの取り組みが今日の救
援活動をどのように伝えているかについて考
えています。



会報担当：青谷友章・大仁孝泰